

2021年6月3日

第7期(2020)FD推進委員会最終活動報告

FD推進委員会

【活動経過】※第1期～第3期までは記載省略

第4期(2014年度～2015年度)

2014年4月	第4期 重点的課題 1. 授業改善のための学生アンケートの改善 2. 授業改善のための学生アンケートの集計結果の公表および活用
2014年7～8月	授業改善のための学生アンケート(前期科目)全学実施
2014年11月	第5回よりよい学びのための学生懇話会(学部生対象)実施
2014年11月	FD教職員ワークショップ実施(「白百合女子大学における学修支援PartⅡ～卒業するまでに身につけてもらいたいこと～」)
2015年1月	授業改善のための学生アンケート(通年・後期科目)全学実施
2015年2月	2011-2013「授業改善のための学生アンケート」結果報告書Web公表 2014前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書Web公表
2015年6月	2014後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書Web公表
2015年7～8月	授業改善のための学生アンケート(前期科目)全学実施
2015年10月	第4回よりよい学びのための院生懇話会(大学院生対象・全専攻合同)実施
2015年10月	FD教職員ワークショップ実施(「白百合女子大学における学修支援PartⅢ～アクティブラーニング～」全2回)
2016年1月	2015前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書Web公表
2016年1月	授業改善のための学生アンケート(通年・後期科目)全学実施
2016年6月	2015後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書Web公表

第5期(2016年度～2017年度)

2016年4月	第5期 重点的課題 授業改善のための学生アンケートの再点検・再検討
2016年7～8月	授業改善のための学生アンケート(前期科目)全学実施 授業改善のための学生アンケートについての教員アンケート全学実施
2016年11月	第6回よりよい学びのための学生懇話会(学部生対象)実施
2017年1月	授業改善のための学生アンケート(通年・後期科目)全学実施
2017年6月	2016前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書Web公表 2016後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書Web公表 FD教職員ワークショップ実施「授業運営の現状と課題について」 ^{*1}

- 2017年7月 授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
- 2017年8～10月 2017 前期授業改善のための学生アンケート（前期科目）顕彰授業表彰 および
顕彰授業における工夫 Web 公表 *2
- 2017年10月 第5回よりよい学びのための院生懇話会（大学院生対象・全専攻合同）実施
- 2018年1月 授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
- 2018年4～5月 2017 後期授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）顕彰授業表彰 お
よび 顕彰授業における工夫 Web 公表 *2

平成 29 年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ 1 教育の質的転換

*1 申請項目 10 『FD 実施のための組織の設置及び教員の参加状況』 対応

*2 申請項目 8 『学生による授業評価結果の活用』 対応

第 6 期（2018 年度～2019 年度）

- 2018年4月 第 6 期 重点的課題
授業改善のための学生アンケートの再点検・再検討
- 2018年7月 FD 講演会実施（「大学生の発達障害とその対応方法について」五十嵐一枝先生）
- 2018年9月 2017 前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
2017 後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
- 2018年7～8月 授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
- 2018年10月 2018 前期授業改善のための学生アンケート（前期科目）顕彰授業表彰 および
顕彰授業における工夫 Web 公表
第 7 回よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）実施
- 2019年1月 授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
- 2019年4～5月 2018 後期授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）顕彰授業表彰 お
よび 顕彰授業における工夫 Web 公表
- 2019年7月 授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
FD 教職員講演会実施「アクティブ・ラーニングへの取り組みについて」*1
- 2019年10月 第 6 回よりよい学びのための院生懇話会（大学院生対象・全専攻合同）実施
2018 前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
2018 後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
- 2019年12月 授業改善のための学生アンケート（前期科目）顕彰授業 および 顕彰授業にお
ける工夫 Web 公表 *2
- 2020年1月 授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
- 2020年6月 授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）顕彰授業 および 顕彰授
業における工夫 Web 公表 *2

*1、2 令和元年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

第7期（2020年度）

2021年度より学内委員の任期が2年となる。今期は特別に1年として報告をする。

2020年4月	第7期 重点的課題 授業改善のための学生アンケートの再点検・再検討
2020年6月	授業改善のための学生アンケート（「遠隔授業に関する状況調査アンケート」） 全学実施 FD講演会実施（学内FDシンポジウム「よりよい遠隔授業の実践に向けて」）
2020年7月	2020年度前期「遠隔授業に関する状況調査アンケート」結果Web公表
2020年10月	授業改善のための学生アンケート（後期・通年科目）1回目 全学実施 FD講演会実施（大学認証評価における「教育課程・学習成果」を考える） ※自己点検・評価委員会と共催 FD（授業改善）の取り組みHP「教育の特色」へ掲載
2021年12月	よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）実施
2021年1月	授業改善のための学生アンケート（後期・通年科目）2回目 全学実施
2021年1月	学修支援ツール(LMS)「manaba course」概要説明会（教員用・職員用）実施
2021年3月	学修支援ツール（LMS）「manaba course」教職員研修会（合同）実施 ※情報環境タスクフォースと連携

【2020年度 活動報告～第7期】

I. 授業改善のための学生アンケート（学部／大学院）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため前期は遠隔授業のみ、後期は遠隔授業を継続しつつ、教職・実習科目の一部科目のみ対面授業を行った。

前期においては、学習支援ツール Campus Square 内のアンケート機能を用い、科目ごとではなく全学生を対象に「遠隔授業に関する状況調査アンケート」を実施した。その後、早急にアンケート結果を活用した「よりよい遠隔授業の実践に向けて」の開催につなげ、各学科・センター、関係部署・委員会でも現状を把握し学生負担の軽減、遠隔授業全体の改善に努めた。

後期においては、前期と同様 Campus Square 内のアンケート機能を用い、実施回数を2回とした。1回目は形成的評価として、2回目は総括的評価として位置付けた。1回目については、各教員がアンケート実施期間後、学生の意見を閲覧できるようにしたため、後期後半の授業運営に反映でき有用だった。

前期 2020年6月12日（金）～6月18日（木） 回答者数1,221名

後期（1回目） 2020年10月19日（月）～10月26日（月）実施科目数：832科目

後期（2回目） 2021年1月18日（月）～1月30日（土）実施科目数：820科目

* 令和2年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

II. よりよい学びのための学部生懇話会（学部生対象）

「学部生対象」と「大学院生対象」を隔年実施しており、2020年度は「学部生対象」で「大学でのよりよい学びとは」をテーマに実施した。Web開催だったことから、参加学生には当日のスケジュールに加え、事前に質問事項を伝えておいたことで学生同士の意見交換はスムーズであった。遠隔授業の状況、悩み、工夫点、学修効果等、学科・学年を超えての交流は、お互いのモチベーション維持にもつながったものと推測される。詳細は添付資料1のとおり。

実施日時	2020年12月9日（水）12:10～12:55
実施方法	Zoom
参加者数	学部生14名、教員4名、職員3名

III. 学内FDシンポジウム「よりよい遠隔授業の実践に向けて」

遠隔授業の課題や実際の授業事例等を学内で広く共有し、よりよい授業を目指すことを目的とし開催した。事前に学生へ行った「遠隔授業に関する状況調査アンケート」の結果報告に加え、4タイプの授業形態を共有し、後半はグループに分かれて情報交換を行った。

実施日時	2020年6月25日（木）16:00～17:30
参加方法	Google Meet
テーマ	よりよい遠隔授業の実践に向けて
参加者数	85名（専任教員75名、職員10名）

※専任教員参加率100%（サバティカル、休職者除く）*

また、2020年度後期から自己点検・評価委員会、情報環境タスクフォース、総務課と連携し、認証評価や学習支援ツール（manabacourse）などに関するFD・SDを複数回実施した。それらを含むFD/SDの参加者数（暫定）は添付資料2のとおり。

*令和2年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

以上

2020年度よりよい学びのための学生懇話会報告書

2020年12月17日

白百合女子大学FD推進委員会

この「よりよい学びのための学生懇話会」は、学生より、普段考えていること、感じていること、意見などを聴き取り、大学の改善に役立てることを目的に開催しているものである。2020年度は、学部生を対象に開催した。

<実施概要>

日時： 2020年12月9日（水）

12時10分から12時55分

参加者： 学部生14名（国文1年生1名、仏文3年生2名、英文2年生2名・1年生2名、児文1年生

1名、心理3年生2名・2年生2名・1年生1名、初等4年生1名・1年生1名）

教員4名（石沢、倉住、村中、やた）、職員3名（大槻、館岡、遠藤）

形式： Zoomによるビデオ会議

司会： 倉住

<スケジュール>

1. 懇話会の趣旨とスケジュール説明
2. グループセッション（1グループ4～5名を3グループ）

※進行役は教員、記録役は職員。

テーマ1

「授業がリモートになり、良かったと思ったこと、大変だったことは何か？」

（2年生以上）従来の対面授業と比較してどんな風感じたか？

（1年生）どのようなサポートが必要か、困ったことはどんなことだったか？

テーマ2

「授業評価アンケートについて」

・前期の遠隔授業アンケート調査の後、改善されているか？

・後期の授業アンケートについて

テーマ3

「学修環境や日常生活について思っていることや感じていること」

3. 全体セッション

各グループで話しあったことを代表の学生が報告

<内容>

テーマ1

「授業がリモートになり、良かったと思ったこと、大変だったことは何か？」

良かった点

利便性

通学時間節約されてよい。

（オンデマンド型）自分の都合よい時間に受講可能。自分のペースで資料等の確認ができた。

課題提出型は自分の学習時間の調整がしやすい。

自宅から授業に参加できると出席しやすい。

学習効果

理解が深まった。

復習がしやすい。

授業内容を後でパワポで送ってフォローしてくれる先生がいて復習がしやすい。

大変だった点

利便性

時間にゆとりができて多少リズムが崩れる。

オリエンテーションがないまま履修登録や教科書発注をネットで行うのが大変だった。

学習効果

文法の授業は対面の方が学習効果が高い。

一人だと勉強へのモチベーション維持が大変。

授業の進め方

課題の量が増えた。毎回レポートを出さなければいけないのが数多くて大変だった。

課題が難しすぎる時がある。教員によるところもある。

90分授業した後に課題が出されることがあり負担時間が増加している。

Zoomもそれなりの良さがあるが、大人数だと質問しにくく、グループワークだと学生とのやり取りだけになるので、教員に質問することができない。

Zoomで顔出ししなくてOKな授業があるが、他の学生の顔が見えないとコミュニケーションがとりづらいと感じる。

出席の取り方を明確に統一してほしい。（Zoomでちゃんと参加しても、最後にリアクションペーパーを忘れると出席にならない授業もあった。）

実習（幼児教育）は6月だったのが10月に延期になった。

教員とのやり取り

先生が多忙なのは理解しているが、質問をしても返信が遅くなる傾向にある。

非常勤教員の方に連絡がなかなかつかない傾向にある。

メールだと質問しにくいこともあるので、直接ききたいこともある。

交流

友人と会話したりつながる時間が減少。

先輩・教員と直接交流がもてなかった。

友達ができない。（1年生）

通信機器・環境の整備

自宅に PC 環境を配備するのが大変。
PC が苦手な慣れるまで大変だった。
Zoom に最初は慣れなかった。
Zoom の ID の入力など授業前の準備が慌ただしくなってしまった。友達は遅刻扱いになってしまっている人もいる。
授業毎に授業ツールが違うが大変。学修ツールは統一してほしい。
Zoom の授業があると環境によって途切れてしまって、先生の話が途中で途切れてしまい、授業内容を理解するのが大変だった。

テーマ 2.

「授業評価アンケートについて」

前期に遠隔授業のアンケート調査を行ったが、その後改善されているか。

改善された点

授業の進め方

前期は出席方法やレポートの提出方法など整備されていなかったが、後期はそのあたりのトラブルはだいぶなくなってきた。

授業形態が改善されたり、資料が見やすくなったと感じる。

授業にズームが導入された。

ズームの授業で、余裕をもって開始時間に配慮してくれるようになった。

フルタイムだった授業の授業時間が短くなった。

授業の課題

前期は課題の量が相当あったが、改善された。

課題は減ったように思う。

改善されていない点

授業の進め方

Zoom の授業を 75 分で終わらせる先生もいれば、90 分すべて行う先生もいて、統一されていない。

ある授業で、後期に入ってから Zoom の授業をやると言っていたのに未だにない。

あまり変わっていないと感じる。

教員とのやり取り

メールで連絡しても返信がなかったりして困っている。

後期の授業評価アンケートについて

匿名だったので意見をいいやすかった。

manaバフォリオでコレクションを全公開にさせていただき他者の意見がわかったり、意見交流できるようになった。

大学として、学生へのアンケート回数が多かった。

全科目は回答していない。

アンケート回答後に回答済みや提出されたというメッセージが出ないため、同じアンケートに何度も答えようとしてしまって紛らわしかった。

語学の授業で会話と文法を Zoom とかなしで資料がくるだけなので、発音の仕方などわからず対面をやってほしいと伝えたが改善されていない。

テーマ3

「学修環境や日常生活について思っていることや感じていること」

学修環境について

学年によって授業の負担感が異なると感じた

課題が多くてかなりつらい。

先生も授業時間に必ず連絡がつくようにしていただきたい。

マナバのコメントで質問をする場合、丁寧に答えてくれるのはありがたい。

課題は図書館利用することが多いが、大学の図書館は予約しないと利用できず大変だった。

学会に入ったので、先輩に履修について相談することができたのは良かった。

英文科は外国人の先生が1年生の交流会などの場所を作ってくれて、友達ができたり、先輩に話を聞くことができて良かった。

交流活動

大学に行きたい。

部活動がしたい。

オンライン授業になってからクラブの活動を1回くらいしかできなかった。

1年生の同期と直接大学で会いたい。

同世代の子と話がしたい。

リモートになり、あらためて先生のやさしさを感じた。

<懇話会を終えて>

今年度の懇話会は普段の遠隔授業さながらに Zoom で行ったが、教員、職員、学生とも慣れており、比較的スムーズに会を進めることができた。3つのテーマについて意見を交換したが、全体会もブレイクアウトのセッションも大きな問題なく進行ができたと言えるだろう。その一方で、限られた時間の中で14名の学生からの意見や思いを聞くためにはまだまだやり方を改善する必要があると感じられた。

今回の懇話会を実際にやってみて、3つの側面から良かった点や今後に向けての改善点を考えていく。その3つとは、「テーマの設定」、「準備」、「役割分担」である。

【テーマの設定】

今年度はコロナウィルスの感染防止のため授業が遠隔で行われたため、どうしてもリモート授業が及ぼした学生の学習への影響について意見を聞くことを避けられなかった。すでに前期のFDシンポジウムに合わせて学生にアンケートを行い、全体的な傾向については広範囲なデータを得ていたが、懇話会では、個々の学生がどのように感じているかを掘り下げて聞くことができ、アンケート調査による量的データを質的に補完することができる考えた。実際に懇話会を通じて、リモート授業に対する学生の本音が出てきたことは狙い通りだったと言える。特に、一年生と上級生の間には感じ方の違いを感じた。反面、そういうことを予測して一年生と上級生に違う質問を用意していたのに、その違いを引き出せるほどの時間がなく、テーマを十分反映した話し合いができたかどうかには疑問が残る。一部の一年生からは、大学に来られないストレスが出てきたのにもかかわらず十分に引き出してあげられなかった面もあったのが反省点である。

テーマについては、短い時間の中で3つよりも1つ、2つにしぼって、ひとつひとつを掘り下げた方が良かったのか、懇話会の目的を見つめ直す意味もこめてこれについて今後検討していきたい。

【準備】

準備の段階から、懇話会の3つのテーマのグループセッションにしっかりと時間をとることを目標にスケジュールを細かく立て、それが結果的に当日の会の進行を大いに助けたことは間違いない。やはり昼休みの45分という限られた時間の中に納めなければならないのは大きな制約で、そのための準備は大切であると実感した。

学生募集については、参加募集のポスターを作ってホームページ上に掲載した。自発的に集まった学生もいたが、やはり学科・学年に偏りがあったので、教員から声かけをしてバランスをとった。自発的な参加をした学生が多かったこともあり、当日のグループセッションでは、積極的に意見を言ってくれて、スムーズな進行ができた。規模にもよるが、参加学生の募集方法も検討課題のひとつであろう。

また、Zoomで全体会やグループ討議を行うこととなったため、必要なツールを検討し、どのタイミングで何を使うかなど事前に話し合いをした。グループセッションになるときに、ブレイクアウトを操作したり、グループで討議された内容を記録したりなど、教員が進行しながらでは難しいことを考え、役割分担を工夫した。オンラインであるが故に細かく考えたが、対面式の懇話会であっても、このような手順の明確化・事前の準備は重要であると考えられる。

【役割分担】

今回の懇話会では、グループセッションを行い、そこでの話し合いをその後続く全体会で報告するという流れにしたが、それを円滑に行うために必要な人員を考えた結果、元々の担当者（教員2名、職員2名）の外に、他のFD推進委員会のメンバーに協力を要請することになった。結果として、2名の教員と1名の職員がグループセッションの進行と内容の記録の役割を快く引き受けてくれた。これによって最終的に教員4名、職員3名で役割分担ができたことが大きかった。また、石沢先生にZoomの操作とタイムキーパーに専念してもらえたことで、

会の進行が格段にスムーズになった。ただ、毎回懇話会にこれだけの人数をかけられるのか、あるいはかけるべきなのかについては今後検討していく必要があるだろう。

<終わりに>

対面式の授業もなく、学生同士が集まる機会もない状態で、学生がこの状況をどう理解し、何を感じているのかを知ることを目的に懇話会を開催した。そのため「いかに学生の考えを聞くことができるか」を考えて懇話会を構成した。Zoomに慣れてきたためブレイクアウトルームを使ったり、記録にグーグルドキュメントを使ったりなど、普段の授業の経験からどのように会を進めたらいいかイメージしやすかった。これは対面式でも活用できるやり方であろう。

限られた時間の中でどれほど学生の考えや感じ方を引き出せたかについてはまだまだ工夫の余地があるだろう。オンラインか対面かにかかわらず、懇話会の構成・進行について引き続き検討をしていく必要がある。

最後に、懇話会に自発的に参加してくれた学生、教員からの声かけに快く参加を決めてくれた学生、協力してくれた教職員などのおかげで、温かくて楽しい時間が持てたことを担当者一同あらためて感謝を申し上げたい。FDの活動を通じて、白百合という場をより良いものにしたという思いを持った教職員と学生がここにいることを再認識できる会であった。次年度以降も引き続き、懇話会をよい形で開催することが望ましい。

2021年度（2020年後期～） FD/SDの参加者集計（暫定）について

＜補助金条件＞教育の質に係る客観的指標より

- ・FD（教員対象）/SD（教職員対象）の研修実施の有無と参加率で得点が決まる。（各3点満点×2項目）
⇒実施していない（0点），実施している（1点），専任の4分の3以上が出席（2点），専任全員が出席（3点）
- ・集計期間は前年度（2020年）10月～申請年度（2021年）9月or10月まで。
- ・委員会が把握していれば、全員が一堂に会するもの以外でも可。学外プログラムへの派遣も該当。
- ・2021/5/1現在で在職中の教職員（休職・サバティカル等を除く）を対象に集計する。
- ・期間中に1回以上参加している者を参加者として扱う。

※2020年度結果：FD=3点、SD=1点 ⇒ 2021年度目標：FD=3点、SD=2点以上

＜FD集計結果＞

開催団体	FD推進委員会共催		基礎・カト センター	対象者のみ 集計結果	
	自己点検	ウェルネス センター			
内容	認証評価	発達障害 (教員のみ)	全学 教養部門FD		
実施日	2020/10/26	2021/6/14	2021/3/10	1回以上 出席者数	出席率
専任教員(全85名中80名が集計対象)	41 (4)	実施予定	8	45	56.3%
参考：職員（集計対象外）	5		2		
参加者合計	50		10		
うち補助金対象者（80名）	41		8	45	56.3%

※教員（ ）内数はサバティカル・年度末退職など集計対象外の参加者

↑100%参加で3点獲得を目指す

＜SD集計結果＞

開催団体	総務課主催			FD推進委員会共催					対象者のみ 集計結果		
				タスクフォース・総務課			総務課	ウェルネス センター			
内容	学長講話 第1回	学長講話 第2回	学長講話 第3回	manaba 第1回 (職員向け)	manaba 第2回 (教員向け)	manaba 第3回 (教職員向け)	初任者研修	発達障害 (職員のみ)			
実施日	2020/10/23	2020/11/27	2021/1/15	2021/1/19	2021/1/25	2021/3/1	2021/4/6	2021/6/14	1回以上 出席者数	出席率	
専任教員(全85名中80名が集計対象)				2	40 (3)	39 (2)	11		60	75.0%	
専任職員(全59名中57名が集計対象)	10	4	5	44	2	25	3		51	89.5%	
参考：非常勤職員(79名, 集計対象外)	2	4	4	26	0	14	0	実施予定			
参加者合計	12	8	9	72	45	80	14				
うち補助金対象者（専任137名）	10	4	5	46	42	64	14			111	81.0%

※教員（ ）内数はサバティカル・年度末退職など集計対象外の参加者

↑75%以上で2点獲得予定